

## 【目次】

### ■ 度数表記と TSD・12 の Key の関係

### ■ V 度圏・平行調・同主調

### ■ 短調の派生形～代理コード

#### 短調の派生形の成り立ち

長調のカデンツ(終止形)を確認する

短調(自然短音階)のカデンツ(終止形)

短調(和声短音階)のカデンツ(終止形)ができた

短調(旋律短音階)のカデンツ(終止形)ができた

長調で短調のコード（代理コード）を使う理論の確立

### ■ （補足）なぜ、短調は bIII・bVI・bVII と書くの？

### ■ コード記号の慣例的な書き方の種類

### ■ 完全音程～ドミナントモーション

長音程、短音程、完全音程

完全音程で進行すると安定感が得られる

本当に V 度→ I 度は終止形？

ドミナントモーションの成立

### ■ ツーファイブ～セカンダリードミナント

4 音構成の黄金進行（ツーファイブ）

セカンダリードミナントの成り立ち

5 種類のツーファイブ

その他のセカンダリードミナント

※↑ここまで理解すれば、ボーカル曲（ボカロ曲含む）のほとんどのコード進行が度数で読み取れるようになります。既存楽曲の分析が作曲の基礎なので、その為の基礎力という事になります。

### ■ Sus4（Coming Soon）

- デイミニッシュ (Coming Soon)
- 裏コード (Coming Soon)
- アーメン終止 (Coming Soon)
- クリシェ (Coming Soon)
- テンションコード (Coming Soon)
- アボイドノート (Coming Soon)
- ペンタトニック (Coming Soon)

## ■ 度数表記と TSD ・ 12 の Key の関係

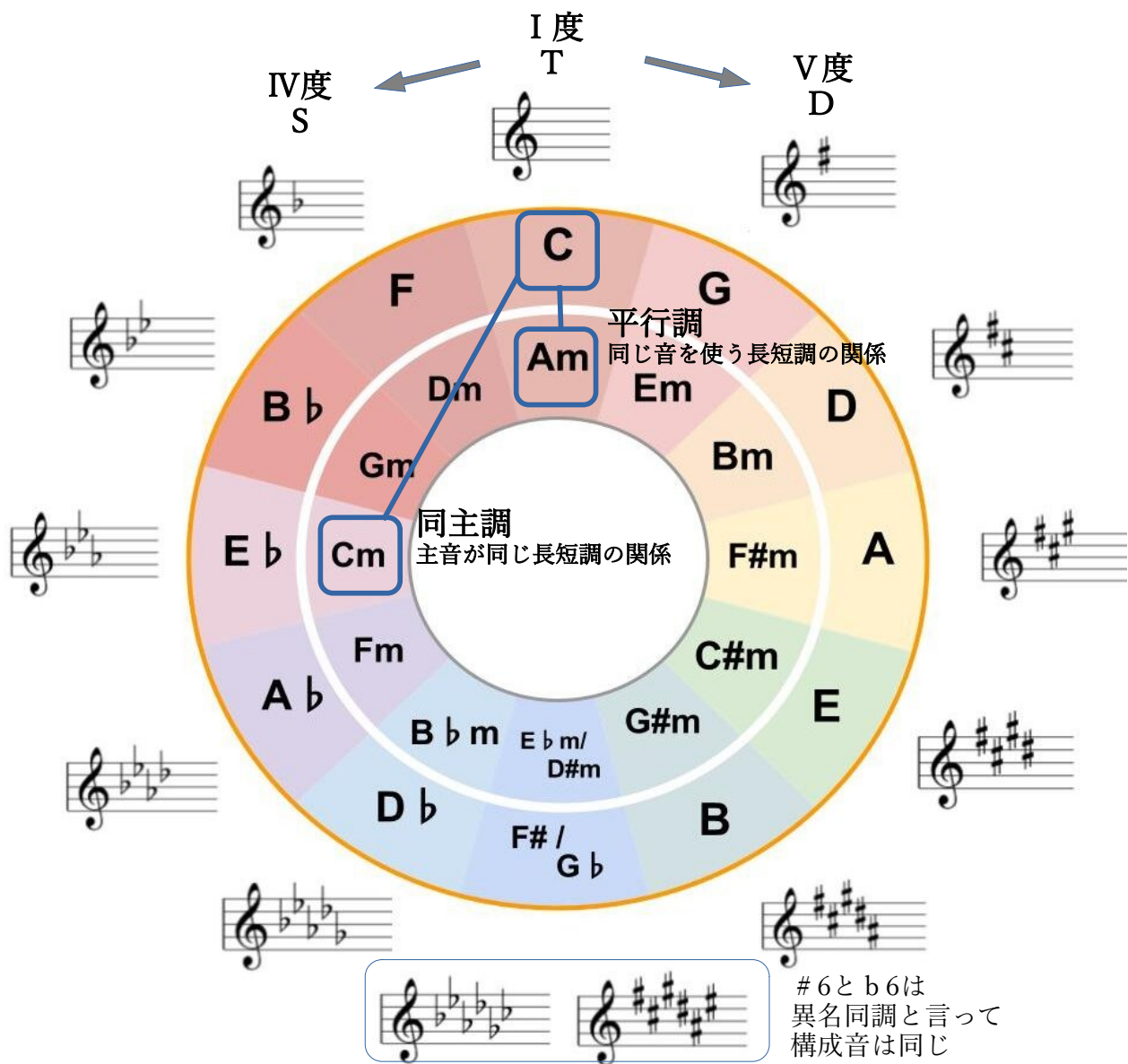
【ダイアトニックコード (3音構成, トライアド)】

| Major Key |             |        | <u>I</u>  | II m | III m | IV   | V     | VI m | VII m-5 |
|-----------|-------------|--------|-----------|------|-------|------|-------|------|---------|
| Minor Key | <u>I m</u>  | II m-5 | b III     | IV m | V m   | b VI | b VII |      |         |
|           | T           | S/D    | T         | S    | T/D   | S    | D     | T    | S/D     |
| 0         | <u>Am</u>   | Bm-5   | <u>C</u>  | Dm   | Em    | F    | G     | Am   | Bm-5    |
| ♭1        | <u>Dm</u>   | Em-5   | <u>F</u>  | Gm   | Am    | B♭   | C     | Dm   | Em-5    |
| ♭2        | <u>Gm</u>   | Am-5   | <u>B♭</u> | Cm   | Dm    | E♭   | F     | Gm   | Am-5    |
| ♭3        | <u>Cm</u>   | Dm-5   | <u>E♭</u> | Fm   | Gm    | A♭   | B♭    | Cm   | Dm-5    |
| ♭4        | <u>Fm</u>   | Gm-5   | <u>A♭</u> | B♭ m | Cm    | D♭   | E♭    | Fm   | Gm-5    |
| ♭5        | <u>B♭ m</u> | Cm-5   | <u>D♭</u> | E♭ m | Fm    | G♭   | A♭    | B♭ m | Cm-5    |
| ♭6        | <u>E♭ m</u> | Fm-5   | <u>G♭</u> | A♭ m | B♭ m  | C♭   | D♭    | E♭ m | Fm-5    |
| #6        | <u>D♯m</u>  | E♯m-5  | <u>F♯</u> | G♯m  | A♯m   | B    | C♯    | D♯m  | E♯m-5   |
| #5        | <u>G♯m</u>  | A♯m-5  | <u>B</u>  | C♯m  | D♯m   | E    | F♯    | G♯m  | A♯m-5   |
| #4        | <u>C♯m</u>  | D♯m-5  | <u>E</u>  | F♯m  | G♯m   | A    | B     | C♯m  | D♯m-5   |
| #3        | <u>F♯m</u>  | G♯m-5  | <u>A</u>  | Bm   | C♯m   | D    | E     | F♯m  | G♯m-5   |
| #2        | <u>Bm</u>   | C♯m-5  | <u>D</u>  | Em   | F♯m   | G    | A     | Bm   | C♯m-5   |
| #1        | <u>Em</u>   | F♯m-5  | <u>G</u>  | Am   | Bm    | C    | D     | Em   | F♯m-5   |

【ダイアトニックコード (4音構成)】

| Major Key |              |         | <u>I M7</u>  | II m7 | III m7 | IV M7   | V 7     | VI m7 | VII m7-5 |
|-----------|--------------|---------|--------------|-------|--------|---------|---------|-------|----------|
| Minor Key | <u>I m7</u>  | II m7-5 | b III M7     | IV m7 | V m7   | b VI M7 | b VII 7 |       |          |
|           | T            | S/D     | T            | S     | T/D    | S       | D       | T     | S/D      |
| 0         | <u>Am7</u>   | Bm7-5   | <u>CM7</u>   | Dm7   | Em7    | FM7     | G7      | Am7   | Bm7-5    |
| ♭1        | <u>Dm7</u>   | Em7-5   | <u>FM7</u>   | Gm7   | Am7    | B♭ M7   | C7      | Dm7   | Em7-5    |
| ♭2        | <u>Gm7</u>   | Am7-5   | <u>B♭ M7</u> | Cm7   | Dm7    | E♭ M7   | F7      | Gm7   | Am7-5    |
| ♭3        | <u>Cm7</u>   | Dm7-5   | <u>E♭ M7</u> | Fm7   | Gm7    | A♭ M7   | B♭ 7    | Cm7   | Dm7-5    |
| ♭4        | <u>Fm7</u>   | Gm7-5   | <u>A♭ M7</u> | B♭ m7 | Cm7    | D♭ M7   | E♭ 7    | Fm7   | Gm7-5    |
| ♭5        | <u>B♭ m7</u> | Cm7-5   | <u>D♭ M7</u> | E♭ m7 | Fm7    | G♭ M7   | A♭ 7    | B♭ m7 | Cm7-5    |
| ♭6        | <u>E♭ m7</u> | Fm7-5   | <u>G♭ M7</u> | A♭ m7 | B♭ m7  | C♭ M7   | D♭ 7    | E♭ m7 | Fm7-5    |
| #6        | <u>D♯m7</u>  | E♯m7-5  | <u>F♯M7</u>  | G♯m7  | A♯m7   | BM7     | C♯7     | D♯m7  | E♯m7-5   |
| #5        | <u>G♯m7</u>  | A♯m7-5  | <u>BM7</u>   | C♯m7  | D♯m7   | EM7     | F♯7     | G♯m7  | A♯m7-5   |
| #4        | <u>C♯m7</u>  | D♯m7-5  | <u>EM7</u>   | F♯m7  | G♯m7   | AM7     | B7      | C♯m7  | D♯m7-5   |
| #3        | <u>F♯m7</u>  | G♯m7-5  | <u>AM7</u>   | Bm7   | C♯m7   | DM7     | E7      | F♯m7  | G♯m7-5   |
| #2        | <u>Bm7</u>   | C♯m7-5  | <u>DM7</u>   | Em7   | F♯m7   | GM7     | A7      | Bm7   | C♯m7-5   |
| #1        | <u>Em7</u>   | F♯m7-5  | <u>GM7</u>   | Am7   | Bm7    | CM7     | D7      | Em7   | F♯m7-5   |

## ■ V 度圏・平行調・同主調



## ■ 短調の派生形の成り立ち

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3音構成、♯C/Am」に設定

➤ 長調のカデンツ(終止形)を確認する

- I (T)→IV(S)→V (D)→ I (T) "王道進行"
- I (T)→II m(S)→V (D)→ I (T) "黄金進行"

※アプリを「短調&長調、度数(短調表記)、3音構成、♯C/Am」に設定

➤ 短調(自然短音階)のカデンツ(終止形)

- I m(T)→IVm(S)→V m(D)→ I m(T) <VI m→II m→III m→VI m>

昔のある人はこう考えた

「自然で綺麗だけど長調より終止感が薄いな。V mをVにしたらどうだろう？」

➤ 短調(和声短音階)のカデンツ(終止形)ができた

- I m(T)→IVm(S)→V (D)→ I m(T) <VI m→II m→III→VI m>

「おお、ガッツリ終わった感じがするね！じゃあ、次の場合は？」

- I m(T)→II m-5(S)→V (D)→ I m(T) <VI m→VII m-5→III→VI m>

「ワビサビ半端ないね。けど、悲しすぎるよね。II m-5をII mにしたらどうだろう？」

➤ 短調(旋律短音階)のカデンツ(終止形)ができた

- I m(T)→II m(S)→V (D)→ I m(T) <VI m→VII m→III→VI m>

「おお、流れが美しいね。それでいて悲しすぎず切ないね！」

「せっかくだから、変更した音を他の度数も同じように変更しておこう」

こうして、短調は3つの音階(コード群)ができあがった

「あれっ、ひょっとして、このコードたち長調のコードとも行き来できるんじゃない？」

つづく

## ■ 長調で短調のコード（代理コード）を使う理論の確立

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3音構成、♯C/Am」に設定

➤ 平行短調からの代理コードが使われるようになった

- I (T)→I +5(T)→VI<sub>m</sub>(T)→V (D) ※オギュメントを使用した代表例
- I (T)→IV(S)→#V<sub>m</sub>-5(D)→VI(T) ※#V<sub>m</sub>-5を使用した代表例

さらに、昔の人はこうも考えた

「平行短調だけじゃなくて、同主短調でもいけるんじゃない？」

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3音構成、♯C/Am」に設定（そのまま）

➤ 同主短調からの代理コードが使われるようになった

- I (T)→IV<sub>m</sub>(S)→V (D)→I (T) ※IV<sub>m</sub>(S)を使用した代表例  
「泣きのサブドミマイナー」とも言われ、ジャンル問わず最も使われる代理コード
- I (T)→IV(S)→bVI(T)→bVII(D) ※bVI と bVII を使用した代表例  
一昔前のアニソン。短調からの借用なのに全てメジャーコードで攻め立てる

## ■ 補足

- それぞれ横並びのコード群を「ダイアトニックコード」と言う  
(長調の～、自然短音階の～、和声短音階の～、旋律短音階の～)
- 長調、短調（自然短音階）以外のコードを「代理（借用）コード」と言う
- 同主調からコードを借用することを「モーダルインターチェンジ」と言う
- J-Pop は モーダルインターチェンジが大好きだが、ボカロ曲は特に多用される傾向
- 多用しすぎると臨時記号が多くなりすぎて、生身の人間が歌えなくなる。ボーカル曲では変化してる音（五線に起こした時に臨時記号が付く音）を使わないようにメロディラインを作るのか定石だが、初音ミク先生はそんな事おかまいなしに完璧に歌い上げてくれる
- 短調の場合は、同主長調から借用するという考え方も成り立つ
- 自然短音階：代表的なジャンルはロック
- 和声短音階：代表的なジャンルは昭和歌謡、演歌
- 旋律短音階：代表的なジャンルはクラシック、ジャズ  
※上記ジャンルは、あくまでも傾向（必ずしもではない）

## ■ （補足）なぜ、短調はbIII・bVI・bVIIと書くの？

### ➤ 1つの長調を基準とした短調は2種類

- 平行調・・・ラ シ ド レ ミ ファ ソ
- 同主調・・・ド レ ミb ファ ソ ラb シb

- ✓ 短調のIII度・VI度・VII度のルート音は、長調に対して半音下がっている事を区別するために、慣例的に短調の場合はbIII・bVI・bVIIと書く。（但し、国際基準のようなものではないので、中にはbが書かれていない資料もあるので注意）

### ➤ 和声短音階は7番目の音が半音上がっている

- 平行調・・・ラ シ ド レ ミ ファ ソ#
- 同主調・・・ド レ ミb ファ ソ ラb シ(♯)

- ✓ 慣例的に同主短調に合せてるので、VII度にbが付いていない時は「和声短音階または旋律短音階のVII度」と読み解く

### ➤ 旋律短音階は6番目と7番目の音が半音上がっている

- 平行調・・・ラ シ ド レ ミ ファ# ソ#
- 同主調・・・ド レ ミb ファ ソ ラ(♯) シ(♯)

- ✓ VII度と同じように、VI度にbが付いていない時は「旋律短音階のVI度」と読み解く

## ■ コード記号の慣例的な書き方の種類

### 【長調・短調（自然短音階）で使用されるコード】

| 書き方                              | 読み方          | ダイアトニックコードの例<br>※長調表記   短調表記  | ドを基準とした構成音 |
|----------------------------------|--------------|-------------------------------|------------|
| __ M __maj __△                   | メイジャー        | I   bIII (ド・ミ・ソ)              | ド・ミ・ソ      |
| __M7 __maj7 __△7                 | メイジャーセブンス    | I M7   bIII M7 (ド・ミ・ソ・シ)      | ド・ミ・ソ・シ    |
| __7                              | セブンス         | V7   bVII7 (ソ・シ・レ・ファ)         | ド・ミ・ソ・シb   |
| __m __.                          | マイナー         | VI m   I m (ラ・ド・ミ)            | ド・ミb・ソ     |
| __m7 __-7                        | マイナーセブンス     | VI m7   I m7 (ラ・ド・ミ・ソ)        | ド・ミb・ソ・シb  |
| __-5 __m(b5)<br>※__dimと書かれる場合もある | フラットファイブ     | VII m-5   II m-5 (シ・レ・ファ)     | ド・ミb・ソb    |
| __7-5 __m7(b5) __∅               | セブンスフラットファイブ | VII m7-5   II m7-5 (シ・レ・ファ・ラ) | ド・ミb・ソb・シb |
| __sus4                           | サスフォー        | V sus4   - (ソ・ド・レ)            | ド・ファ・ソ     |
| __7sus4                          | サスフォーセブンス    | V 7sus4   - (ソ・ド・レ・ファ)        | ド・ファ・ソ・シb  |

↑ 五線に書いた時に臨時記号が付かない

### 【短調（和声短音階・旋律短音階）で追加されて使用されるコード】

| 書き方   | 読み方                            | ダイアトニックコードの例<br>※長調表記   短調表記   | ドを基準とした構成音  |
|---|--------------------------------|--------------------------------|-------------|
| __mM7   | マイナーメイジャーセブンス                  | VI mM7   I mM7 (ラ・ド・ミ・ソ#)      | ド・ミb・ソ・シ    |
| __+5 __aug __+ __(#5)                         | オギュメント                         | I +5   bIII +5 (ド・ミ・ソ#)        | ド・ミ・ソ#      |
| __M7+5 __aug7 __M7+ __M7(#5)<br>※Mが省略される場合がある | メイジャーセブンスオギュメント<br>(オギュメントセブン) | I M7+5   bIII M7+5 (ド・ミ・ソ#・シ)  | ド・ミ・ソ#・シ    |
| __dim7 __°<br>※__dimと書かれる場合もある                | ディミニッシュ<br>(ディミニッシュセブン)        | VII dim7   II dim7 (シ・レ・ファ・ラb) | ド・ミb・ソb・シbb |

↑ 五線に書いた時に臨時記号が付く



## ■ 長音程、短音程、完全音程

➤ ドを基準にした音程の呼び方 ※ () 内は低い方へ動いた場合

- ド⇄レ 長2度 (短7度)
- ド⇄ミ 長3度 (短6度)
- ド⇄ファ 完全4度 (完全5度)
- ド⇄ソ 完全5度 (完全4度)
- ド⇄ラ 長6度 (短3度)
- ド⇄シ 長7度 (短2度)
- ド⇄ド 完全8度、完全1度

➤ ラを基準にした音程の呼び方 ※ () 内は低い方へ動いた場合

- ラ⇄シ 短2度 (長7度)
- ラ⇄ド 短3度 (長6度)
- ラ⇄レ 完全4度 (完全5度)
- ラ⇄ミ 完全5度 (完全4度)
- ラ⇄ファ 短6度 (長3度)
- ラ⇄ソ 短7度 (長2度)
- ラ⇄ラ 完全8度、完全1度

## ■ 完全音程で進行すると安定感が得られる

➤ 中でも下記2つの進行を「強進行」という

- ソからドへ下がる (完全5度下降)
- ソからドへ上がる (完全4度上昇)

そこから、V度→I度の進行を「完全終止」と呼ぶようになった

## ■ 本当にV度→I度は終止形？

➤ C→G→Cの進行はC MajorKey以外にも存在する

※アプリを「短調&長調、音名表記、3音構成、 $\flat$  C/Am」に設定（音名表記に変更）

- C(I)→G(V)→C(I) ⇒ 終止形に聴こえるのは先入観？

※アプリを「短調&長調、音名表記、3音構成、 $\sharp$ 1 G/Em」に設定（G MajorKeyに変更）

- G(I)→C(IV)→G(I)・・・同じ和音で並びが変わっただけ  
⇒ C→G→Cを聴いた直後に聴くと、  
G(I)→C(IV)の部分がG(V)→C(I)と終止形に聴こえる

つまり、V度→I度は他のKeyにI度→IV度の関係になってるものが存在するので、人によっては、終止形に聴こえていない可能性がありえる

## ■ ドミナントモーションの成立

➤ 確実な完全終止形

※アプリを「短調&長調、音名表記、3&4音構成、 $\flat$  C/Am」に設定

（C MajorKey, 3&4音構成に変更）

- C(I)→G7(V7)→C(I) ⇒ 誰が聴いても終止形（「気をつけ、礼！！！」）
  - ✓ ○7は各keyそれぞれ1ヵ所しかなく、確実にV7でKeyが定まる  
（旋律短音階のIV7は、特殊なのでここでは無視する）
  - ✓ V7(D)→I(T)の進行を「ドミナントモーション」と言う
  - ✓ ○7は単体で聴いても不安定な響きなので、トニックに行きたい感が強い

## ■ 4音構成の黄金進行 (ツーファイブ)

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3&4音構成、♯C/Am」に設定

➤ II m も II m7 にしてみる

- $\bigcirc \rightarrow \text{II m(S)} \rightarrow \text{V(D)} \rightarrow \text{I(T)}$  ※ $\bigcirc$ は任意
- $\bigcirc \rightarrow \text{II m(S)} \rightarrow \text{V7(D)} \rightarrow \text{I(T)}$  ⇒ 終止感が増す
- $\bigcirc \rightarrow \text{II m7(S)} \rightarrow \text{V7(D)} \rightarrow \text{I(T)}$  ⇒ 「おお、繋がりが美しい！！」

✓ II m7(S)→V7(D)→I(T)は、ジャンル問わず黄金中の黄金

✓ 「ツーファイブ」または「ツーファイブワン」と言う

## ■ セカンダリードミナントの成り立ち

※アプリをの設定はそのまま、「セカンダリードミナント」の項目と組み合わせて使用

➤ II m が II に変形している場合は5度上のドミナントである

昔の人はこう気づいた

「II m7 から下降するとV7は完全5度じゃん」

「完全5度ってことは、ここでもドミナントモーション使えるんじゃない？」

- $\bigcirc \rightarrow \text{II m7(S)} \rightarrow \text{V7(D)} \rightarrow \text{I(T)}$  ※ツーファイブ
- $\bigcirc \rightarrow \text{II 7(?)} \rightarrow \text{V7(D)} \rightarrow \text{I(T)}$  ⇒ 「なんか、めっちゃ興奮するじゃん！！」

「どういう構造になってるんだろう？ 3音構成で考えてみるか！」

「そうだ！ II→Vは5度上のKeyで考えるとV→Iになってるんだ」

- $\text{II} = \text{V/V}$  (5度上の Dominant) ※"/V"の分母は"5度上の"という意味  
→  $\text{V} = \text{I/V}$  (5度上の Tonic かつ 主 Key の Dominant) ※ここがポイント  
→ I (主 Key の Tonic)

➤ II (D)→V (T&D)→I (T)の成立 (ダブルドミナント)

- $\text{O} \rightarrow \text{II} \rightarrow \text{V} \rightarrow \text{I}$  ( $\text{O} \rightarrow \underline{\text{V}/\text{V}} \rightarrow \text{V} \rightarrow \text{I}$ ) ※3音構成
- $\text{O} \rightarrow \text{II } 7 \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I}$  ( $\text{O} \rightarrow \underline{\text{V } 7/\text{V}} \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I}$ ) ※4音構成

✓ II→V→Iは「セカンダリードミナント」であり「ダブルドミナント」と言う

## ■ 5種類のツーファイブ

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3&4音構成、♯C/Am」に設定

- $\text{O} \rightarrow \text{II } m7 \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I}$  ※長調

※アプリを「短調&長調、度数(短調表記)、3&4音構成、♯C/Am」に設定

- $\text{O} \rightarrow \text{II } m7-5 \rightarrow \text{V } m \rightarrow \text{I } m$  < $\text{O} \rightarrow \text{VII } m7-5 \rightarrow \text{III } m \rightarrow \text{VI } m$ > ※短調、自然短音階
- $\text{O} \rightarrow \text{II } m7-5 \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I } m$  < $\text{O} \rightarrow \text{VII } m7-5 \rightarrow \text{III} \rightarrow \text{VI } m$ > ※短調、和声短音階
- $\text{O} \rightarrow \text{II } m7 \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I } m$  < $\text{O} \rightarrow \text{VII } m7 \rightarrow \text{III} \rightarrow \text{VI } m$ > ※短調、旋律短音階

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3&4音構成、♯C/Am」に設定

- $\text{O} \rightarrow \text{II } 7 \rightarrow \text{V } 7 \rightarrow \text{I}$  ※長調、ダブルドミナント

## ■ その他のセカンダリードミナント

※アプリを「短調&長調、度数(長調表記)、3&4 音構成、♯C/Am」に設定

- $I 7 = V 7/IV$  (IV度上のV 7)
- $III 7 = V 7/VI$  (VI度上のV 7 = 平行短調のV 7)
- $\#IV 7 = V 7/VII$  (VII度上のV 7) ※ルート音が変化するので特殊
- $VI 7 = V 7/II$  (II度上のV 7)
- $VII 7 = V 7/III$  (III度上のV 7)

- ✓ 必ずV/○で表した時の分母の度数に進行する
- ✓ ポップスでは一時的に借用して主 Key にすぐ戻る
- ✓ クラシック・ジャズではセカンダリードミナントをきっかけに転調する
- ✓ ○m が○に変形された時と、V 7以外の○7が出てきた時は、まずセカンダリードミナントを疑ってみるべし